

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30

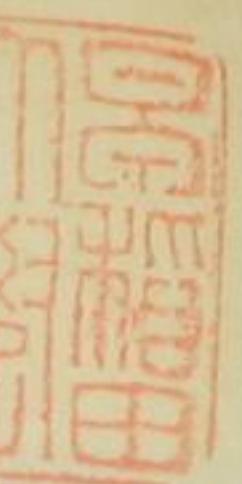


184

文庫11
A104
12

柳田泉文庫

48 10650



萬葉集卷第八

春雜歌 二首 大斗 寒甘酸味歌 二首 ○ 大斗

志貴皇子懽御歌 二首 大斗 情遊韻歌 二首 ○ 情遊

一首 ○ 尾張連歌 二首 名闕 ○ 鏡王女歌 一首 ○ 駿河采女歌

一首 ○ 山部宿禰赤人歌 四首 ○ 草香山歌 一首 ○ 櫻花歌

一首 并今本厚と原ニ誤 ○ 山部宿禰赤人歌 一首 ○ 大伴坂上郎女

柳歌 二首 ○ 大伴宿禰三林梅歌 一首 林ハ依の誤 ○ 厚見王歌

一首 今本厚と原ニ誤 ○ 大伴宿禰村上梅歌 二首 村と材子誤 ○ 大伴宿

禰駿河麻呂歌 一首 ○ 中臣朝臣武良自歌 一首 ○ 河邊

朝臣東人歌 一首 ○ 大伴宿禰家持鷺歌 一首 ○ 大藏少

輔丹比屋主真人歌 一首 ○ 丹比真人乙麻呂哥 一首 屋主之子也

○ 高田女王歌 一首 高安之女也 ○ 大

伴坂上郎女歌一首○大伴宿祢家持春鶲歌一首○大伴坂上郎女歌一首

春相聞

大伴宿祢家持贈坂上家之大娘歌一首○大伴田村家毛大娘與妹坂上大娘歌一首毛之保○大伴宿祢坂上郎女歌一首宿祢の下家持贈の三事焉の○笠女郎贈大伴家持歌一首○紀女郎歌一首名曰小廣天平五年癸酉

春閏三月笠朝臣金村贈八唐使歌一首并短歌○藤原朝臣廣嗣櫻花贈娘子歌一首娘子和歌一首○厚見王贈久采女郎歌一首 久采女郎報贈歌一首○紀女郎贈大伴宿祢家持歌二首 大伴家持贈和歌二首○大伴

家持贈坂上大娘歌一首

夏雜歌

藤原夫人歌一首○志貴皇子御歌一首○弓削皇子御歌一首○小治田廣瀨王霍公鳥歌一首○沙彌霍公鳥歌一首沙彌上三方の事と云ひ○刀理宣令歌一首○山部宿禰赤人歌一首○式部大輔石上堅魚朝臣歌一首 太宰帥大伴卿和歌一首○大伴坂上郎女思筑紫大城山歌一首○大伴坂上郎女霍公鳥歌一首○小治田朝臣廣耳歌一首○大伴家持霍公鳥歌一首○同家持歌二首○同家持晚蟬歌一首○大伴書持歌二首○大伴清繩歌一首○庵君諸立歌一首○大伴坂上郎女歌一首○大伴家持唐棣花歌一首○同家持恨霍公鳥晚喧歌二首

○同家持懽霍公鳥歌一首 ○同家持惜橘花歌一首 ○
同家持霍公鳥歌一首 ○同家持雨日聞霍公鳥喧歌一
首 ○橘歌一首 遊行女婦 ○大伴村上橘歌一首 ○大伴
家持霍公鳥歌二首 ○同家持石竹花歌一首 ○惜不登
筑波山歌一首 惜ハ恨
の語

夏相聞

大伴坂上郎女歌一首 ○大伴四繩宴吟歌一首 ○大伴
坂上郎女歌一首 ○小治田朝臣廣耳歌一首 ○大伴坂
上郎女歌一首 ○紀朝臣豐河歌一首 ○高安歌一首 ○
大神女郎贈大伴家持歌一首 ○大伴田村大娘與妹坂
真上大娘歌一首 ○大伴家持攀橘花贈坂上大娘歌一首
并短歌 ○同家持贈紀女郎歌一首

秋難歌門前柳一首 ○同家持林雞三首 内番人故所附
圖本天皇御製哥一首 ○大津皇子御歌一首 ○穗積皇
子御歌二首 今一
の語 ○但馬皇子御歌一首 云子部王作
の語 ○山部王惜秋葉歌一首 ○長屋王歌一首 ○山上
憶良七夕歌十二首 ○太宰諸卿大夫并官人等宴筑前
國蘆城驛家歌二首 ○笠朝臣金村伊香山作歌二首 林
持
○石川朝臣老夫歌一首 ○藤原宇合卿歌一首 ○
緣達帥歌師子化 ト ○山上臣憶良詠秋野花歌二首 ○天
皇御製歌二首 ○太宰帥大伴卿歌二首 ○三原王歌一
首 ○湯原王七夕歌二首 ○市原王七夕歌一首 ○藤原
八束歌一首 か文氏の下
胡佐のまき ○大伴坂上郎女晚茅子歌一首 ○
典鑄正紀朝臣鹿人至衛門大尉大伴宿祢稻公跡見庄

作歌一首○湯原王鳴鹿歌一首○市原王歌一首○湯原王蟋蟀歌一首○衛門大尉大伴宿祢公歌一首
大伴家持和歌一首○安貴王歌一首○忌部首墨麻呂歌一首○故鄉豐浦寺之尾私房宴歌三首○大伴坂上郎女
跡見田庄作歌二首○巫部麻蘿娘女鷦歌一首○大伴家持和歌一首○同家持和歌一首○日置長枝娘子歌一首○大伴家持和
歌一首○同家持秋歌四首○藤原朝臣八束歌二首○利村
大伴家持白露歌一首○大伴利上歌一首の邊○右大
臣橘家宴歌七首○橘宿祢奈良丸結集宴歌十一首作者十人
麻呂子也○大伴坂上郎女竹田庄作歌二首○佛前
唱歌一首○大伴宿祢像見歌一首○大伴宿祢家持到
娘子門作歌一首○同家持秋歌三首○内舍人石川朝

臣廣成歌二首○大伴宿祢家持鹿鳴歌二首○大原真人
今城傷惜寧樂故鄉歌一首○大伴宿祢家持歌一首
秋相聞

額田王思近江天皇作歌一首○鏡王女作歌一首○弓
削皇子御歌一首王子○丹比真人歌一首名瀬○丹生
女王贈太宰帥大伴卿歌一首○笠縫女王歌一首六人
田形皇女王之女母曰○石川賀係女郎歌一首○賀茂女王歌一
首本久子長屋王之女母阿倍朝臣也○遠江守櫻井王奉天皇歌一首
天皇賜報和御歌一首○笠女郎贈大伴宿祢家持歌一
首○山口女王賜大伴家持歌一首○湯原王贈娘
子歌一首○大伴家持至姑坂上郎女竹田庄作歌一首
大伴坂上郎女和歌一首○巫部麻蘿娘子歌一首○大伴

田村大娘與妹坂上大娘歌二首六村ノ誤○坂上大娘秋稻
蘆贈大伴宿祢家持歌一首 大伴宿祢家持報贈歌一
首○又報脫著身衣贈家持歌一首晚ノ誤^{六股ノ}○大伴宿祢家
持攀非時藤花并芽子黃葉二物贈坂上大娘歌二首○
同家持贈坂上大娘歌一首并短歌○同家持贈安倍女
郎秋歌一首○同家持後久邇京贈留寧樂宅坂上大娘
歌一首○或者贈尼歌二首 尼作頭句并大伴宿祢家
持所訛尼續末句和一首本文子和上等字
和下歌字有之

冬雜歌

舍人娘子雪歌一首○太上天皇御製歌一首○天皇御製歌
一首○太宰帥大伴卿冬日見雪憶京歌一首同卿梅
歌一首朝臣廣辭雪梅歌一首^{辨本文}_{安倍朝臣奥}

道雪歌一首○若櫻部朝臣君足雪歌一首○三野連石
守梅歌一首○巨勢朝臣宿奈麻呂雪歌一首○小治田
朝臣東麻呂雪歌一首○忌部首黑麻呂雪歌一首○紀
少鹿女郎梅歌一首○大伴宿祢家持雪梅歌一首○御
在西池邊肆宴歌一首○大伴坂上郎女歌一首○池田
廣津娘子梅歌一首○縣犬養娘子依梅發思哥一首○
大伴坂上郎女雪歌一首

冬相聞

三國真人足歌一首○大伴坂上郎女歌一首 和歌
一首○藤原后奉 天皇御歌一首○池田廣津娘子歌
一首○大伴宿祢駿河麻呂歌一首○紀少鹿女郎歌一
首○大伴田村大娘與妹坂上大娘歌一首○大伴宿祢

家持歌一首

大和國土鴨モ雪婚一音
那半樂モ鉢婚一音 織大賽歌モ外鉢婚恩哥一音
本國御事鉢算婚一音○大和國土鴨女婚一音○駕御
御事鉢算婚一音○大和麻律男林毛鉢婚一音○駕御
御事鉢算婚一音○大和麻律男林毛鉢婚一音○駕御
宇踏婚一音○日除御事鉢算婚一音○山越町
御事鉢算婚一音○采點勝時御事異言婚一音○三種車

春雜歌

春志貴皇子懽御歌一首天智天皇の皇子、田原天皇と謫居れど門
石激垂見之上乃左和良妣乃毛要出春爾成来鴨

いたるたるみのう人のそわらびのからいつるはるにたまひるかも
いそしる松洞、垂水ハ攝津國豐島郡神名帳豊島郡垂水神社あり、奉
七奉十二三の石立するたるみのゆとよあひ、拂曉いうるはくもあられ候、
此空子代くままれまくやふ草木元年又百戸村せられ、和経七年又
二百戸、臺龜元年又一品とアレば、その時の拂曉也、此地名と云ふ
もくらハ村戸松洞もくらすや、ちくすく虚きにそくまくけく
・あらゆるかじハさうされば

鏡王女歌 天武紀十二年秋七月天皇鏡姫王の家より幸病と訊きまよ
されり

神奈備乃伊波瀬乃杜之喚子鳥痛莫鳴吾戀益
かみやびのいはせのゆきのよどどくまなまきわがこころもる

いたせ大和乃子を改ふか字瀬乃杜毛利とく

駿河采女歌一首

沫雪香薄太禮爾零登見左右二流倍散波何物苑其毛
あこゆきうはづりゆづるもみるまでにたゞくへちるハナふのゆすがむ
ほをうのうのう儀べ、あぐくちうハ隣毛とひて、半千きくもゆ
もゆゆよ極き教みだらするさんぐとす、又おれのれゆはを流
くもゆく、物の下一本之のゆる

尾張連歌二首 名闕

春山之間乃宇為黑爾春菜採妹之白紐見九四興四門
たるやまのさみのたとよれけのゆつもいゆがよすひし、みらく一よりも

半為黒
ハニ鳥
半ノ誤

木多根許士余許士而

山部宿禰赤人歌四首

春野雨須美禮稼雨等來師吾曾野辛奈都可之美一夜宿
二来

はるのふすみれつうかく、わざのをなつてみじくよふみける
垂つむハ衣摺人料うきべト、和名抄董榮俗謂之董葵
礼、もとそのうきみを
もと、今ぞみるも

足比竒乃山櫻花日並而如是開有者甚憇目夜裳
あひきのやまざくらばなひわくよてかくわくよし

アラビア、支那

標子

後明日者春菜将採跡標之野爾昨日毛今日毛雪波布利
管

トモハセウムアリテ、ハ
モニモサヘ

草香山歌一首 古事記雄略條久佐加弁のうちにふと河内國河内郡
忍照 難波守過而 打靡
草香乃山守暮晚雨

吾越來者。山毛廿爾。笑有馬醉木乃。不惡。吾守

わがさんざればやまらせよ。あじのいとくぬまみを
何時、往而早將見

いづのゆきともやみも

ちうてゐる。まことに、おじい様をねらへる所本ハ改めが、まあ
ひのそとくわざりとあらう、もとハ女より男と見ていて、年中ひまうれ
ど、又男でもかどもして、いつとも思ひもしないが、はまのあらわおでのみ
まふわけハ至り、まつまつと、まつまつと、まつまつと、まつまつと、

右一首依作者微不贊名字

櫻花歌一首并短歌

嬢嬪等之挿頭乃多宋雨遊士之繡之多宋等數座流國序
もとめらのかさのこめふみやじをのかづのこめとまきよりせらうもの
波多兵爾開爾鷄類櫻花能丹穗日波母安奈何
はくとふきまふけもとくのはまのありいはもあなよ

遊士よりひそかに聞へまつた事ない。其の妻の口の筋をもたう。

誤頭
神
二

何一本

反詩

去年之春。相有之君爾。戀爾手師。櫻花者。迎來良之母。
之子の在る。あらわしきみよ。こいひて。さくのまほ。もうくくも
まほ様とあざぐ人を差し合つ。ばまくとほんとほんとほんとほんと
あらわし。萬の心をもつておあらう。室もハ太のまほハ役向うにて、もは
人の越引するのまほをもじ。さくとび五ある。近とハよきものゆきざれば近

右二首若宮年矣麻呂誦之 あゆすの右うとしまへん
山郭宿禰赤人歌一首

百濟野乃。笄古枝爾。待春跡。居之。聞鳴雨。鷄鵝鴨。

くわくわのたまひよちるよつとまみ。うそひじや
や大和十市郡、まにふらまぐる海のあよき。

大半反上那女卯歌二首

錄

吾背児我見良年佐保道乃青柳守手折而谷裳見綵欲得
わのせこがみくらんさはぢのあをやまきとこももうてどくそくよーしかも
くさんへとくまくまく、綵欲得、こううううとけれどよき、其角がいつかく、綵
縁のほうるべー、もまとよひきがくくく、やあてせこごゑひほの柳とぎ
をめすもあーりりりうむ

のほるよしのうのあそやせこまへちくへとたまひにけり。一
チのうす物は、もへを穿つちくへとたまひにけり。

大伴宿禰三林梅歌一首

林ハ依の湯れ三依ハ改歟

霜雪も未過者不思爾春日里爾梅花見都
アレゆきも未過者不思爾春日里爾梅花見都
アレゆきも未過者不思爾春日里爾梅花見都

厚見王歌一首

河津鳴甘南備河雨嘵所見今歲開良武山振乃花
かうづやくかなみどりひのうすよかげみそえもやまくわらじやまよよまのよす

大伴宿禰村上梅歌二首 俊紀宝龜三年四月後立住下阿波守
含有常言之梅我枝。今旦零四沫雪二相而將開可聞。
すめとじくうめづえけとす。あやゆさすあひく。さきぬく

ウセツラヒモ

五
解

九

霞立春日之里梅花山下風雨落許須莫湯目
からみもかまづのとくめばもあくのかせよちうこをちゆえ

宿主被絶あれすりがまでくや、ひきくらべて、あことよハ、
きりよそ、こまくわゆるゆくよほて、おもよれとわよまくよく

大伴宿禰駿河麻呂歌一首

霞立春日里之梅花波奈爾將問常吾念奈久雨

からみもかまづのとくめばもあくのかせよちうこをちゆえ
をハ時の物とわてやうてえといふの序く、言もむよくとく
あくふくとくとくせせまりてきみうなるやせむなすとくうのとくもく
なふとくとく

中臣朝臣武良自歌一首

時者今者春爾成跡三雪零遠山邊爾霞多奈婢久

とくひいまはるふなすりぬとくゆきよるとくやまくよからみもくい
雪のほくもくうへよゆの拂りゆくへ

河邊朝臣東人歌一首

春雨乃敷布零爾高圓山能攫者何如有良武

ちくみのあくくよみてたうまとのやまのさくくばくふあくくへ

大伴宿禰家持鷦歌一首

打霧之雪者零乍然為我二吾宅乃苑爾鷦鳴裳

うちきくしゆきくふすつたうくじくじくわ
もくにハダをうふくまくがくくいとく、りきへわびりとゆうくまく
和企帝、ます和我霸もあれば、りくとくじく

大藏少輔丹比屋主真人歌一首

難波邊爾人之行禮波後居而春菜採兒辛見之悲也
なみくべいとのゆうれがおくれあてわのまつむとよみがかたうさ
人ハモタマリマトリスしゆゑりゆけふりきとえ支よ別居くひくまつ
タリとそく憐れむ地ハ徒ニタムコト倒す

丹比真人じ麻呂歌一首

日福屋主真人第ニ之子也。倭紀天
平神護元年正月位上多治真人じ麻呂授後五位下トえゆ

霞立野上乃方爾行之可波鷺鳴都春爾成良思

かじみづのへのがよゆき一のばくごいもなまつたるよなるく
せのへばくすあれやのよもせ名すあくも

高田女王歌一首 高安之女也 はな一をよな

山振之咲有野邊乃都保須美禮此春之雨爾盛奈里鶴利

やまよきのまきのものべのつぼぞみれこのはるのあめよけうちうちくわ
まくわれ合ひゆくももれつぶぞれとくくわ

大伴坂上郎女歌一首

風交雪者雖零實爾不成吾宅之梅乎花爾令落莫

かせまアモシカハシムシテナムシヌヤズアのうめを。をちふちもれ
二の白くやけぬけくとしもきもどるなれとしむきのねも。をちふハアモシアリテシミトバマ
キモアヌ四けくとしもきもどるなれとしむきのねも。をちふハ

望よハアモシアリテ。揚と萬ヒテトシモスル

大伴宿禰家持養鶴歌一首 日福よ養と春よ能とトナリ

春野爾安佐留鶴乃妻戀爾已我當辛人爾令知管

ちるのよあきらきでーのつまびといよおのがあるを。いとよとれつ
あれハモシアリト鶴毛。毛ハ多のねよとく難のあと埋けられども

うやうひ竹をもむがーとよ伊ー人ふきくまくまととくつる壁
あかるべー

大伴坂上郎女歌一首

尋常聞者苦す喚子鳥音奈都炊時度成奴

よのねよすきくはくよきよみよくわかなつきときよハナシ
まちのほよどがまのまよ面をゑばたうハナシをねりしまくらもの
まくらねりとくはまむほほひ

右一首天平四年三月一日佐保宅作 郎女の父大伴安麻呂

でのくちり

大伴宿禰家持贈坂上家之大娘歌一首

吾屋外爾時之瞿麥何時毛花爾咲奈武名蘇經乍見武

春相聞

万解八

十二

わづやじにまきりひぐこいづりしとまくまきうまんちがへつみむ
あぐりみふさうじ鳴すあそくくさんとく

大伴田村家之大娘與妹坂上大娘歌一首

茅花拔淺第之原乃都保須美禮今盛有吾戀苦波

つをまぬくあまむどのいのつがぞれいまほうすもすわづこすく
よハ壁やと、そく序のい峰珠あ里とく

大伴宿禰坂上郎女歌一首 郎女

かがねとまき傳多事中

情具伎物爾曾有難類春霞多奈引時爾戀乃繁者

うどきのふをあうくもくもかもみとまびとまくのふさ
ふさとへまでもるふおれ行情具えまく情ハ十日すゆうとくもハ
くもくよい

笠女郎贈大伴家持歌一首

水鳥之鴨乃羽色乃春山乃於保束無毛所念可聞
みづとうのがものありうすやまのわざつのなくもおさゆゆるのも

一二の匂いまふの保もとといん料もく、もかひがつてまくとほへ原へ
半一せあふまきとまきとゆとを入てまくとつるゆく、もひととゆき
もよそじとれべくとみの節もとねがつてまくとれもく、或はまくの原へ
りがつとまきとまくべー、半サヨ水もろ可毛能羽能伊弓乃とあ

紀女郎歌一首 古キニ廣人大夫女、名曰小鹿、安貴王之妻也とあ
闇夜有者宇倍毛不來座梅花開月夜爾伊而麻左自常屋
やスナラハ、うへもきまき、うめのたまけもつくよ、ソトマキ、トヤ

いでもトトモやハ、東まき、トヤソク、西ハ耐キの保乃も

天平五年癸酉春閏三月笠朝臣金村贈入唐使歌一首

并短歌

後紀天平四年八月以後四住下多治比真人廣成爲遣唐大使、後五
位下中臣朝臣名代爲副使、

玉手次 不懸時無 氣緒爾 吾念公者虛蟬之
たまがまき、りけぬとき、いきのをよわがりまきみ、うつせみの
命 恐 夕去者鶴之妻喚 難波方 三津埼後
みえがこみ、ゆきばたづかつまよ、なみ、みつのときより
大舶爾 二榼繁貴 白浪乃 高荒海寧 島傳
おほくね、まかちもくぬま、とうなみの、たのきあるみを、まつし
伊別往者 留有 吾者幣引 齊乍 公字者將往
いきこれゆうぞくまれる、われハぬまく、いぢつてまくとまく
早還萬世
はやかへらませ

玉のき櫻、いきのとハ命のかきよしと、半九をす人と成事ハアキ
ミミ、虚様乃代人有者大王之御命恩美、まくもてきのちうよ、虚様
乃せ人有者、大王之御命恩美トスム、シモの御事伝ふ、命のま世
の人あれ、大きみのミソニウジ、ハモベー、考津、いつる、トク、ま桜
ハ身のたたなみ桜とり、併別の伴ハ霞後、引ハ取のまの霞ともべ、
齊ハ齋トキト用ヒ、往ハ待の経もまくすむ。

反歌

波上徒所見兒島之雲隱、究氣衝之相別去者

かみのへゆふゆるこだまのくも、かくも、あないきづ、あひわつれいね、
火事ハ傷筋、半斗一斗、アトアト、小舟の度久本、くも、まく候向と切
向のよへりぐー、アヌー、おあてはば波のとくうえやうえゆきとくまでたぐ
まくは、まくは、まくは、あくと歌きとくうーとあくと、めりく、あくと

玉切命向戀後者公之三舶乃梶柄母我
たまきごるひのよむじうひそりんゆハキミシテナのかぢのくらみのう
みまきのむ櫻舟、半度よ船をのまくよし、もうが、舟の梶舟と朱うしと船と
梶舟ハ櫻の握る手と、りまく、が、じもと、りまく、船と、三ハ信言
まくは

藤原朝臣廣嗣櫻花贈娘子歌一首　式部卿宇合の第一首
此花乃一與能内爾百種乃言曾隱有於保呂可爾為莫
このをものことよめうちてかくきのことをうけられるおほろつふまゆ
まくは様のまよ種との言とくあくれば、もうそりけるとひまくへよ
一葉のすゝて茎えくと、一瓣のすとがりくとべー

娘子和歌一首

此花乃一興能裏波百種乃言持不勝而所折家良愛也
このたまのひとよりうちがすくきのことからかねてをとれをうぢゆ
を一いのゆよ枝のうちとくさればほほとてまる枝のまおう
まへるよあくちやも

厚見王贈久米女郎歌一首

屋戸在櫻花者今毛香聞松風疾地爾落良武

やどゆるやくのあれにますもす。まううせをやみつちふおつらむ
やどゆるやくのあれにますもす。初句はうもあれど次のあを今まふ在の上ふとねせり

久米女郎報贈歌一首

世間毛常爾師不有者屋戸爾有櫻花乃不所比日可聞
よのなむしつねりあくねばやどふあるやくのたまのせんじゆ

紀女郎贈大伴宿禰家持歌二首

戲奴寔云之爲吾手毋須麻爾春野爾拔流茅花曾御食而
肥座

わけうあうううううううううううううううううううううう
わけハ汝とりよそとく花のかみがゆれよ脚一ひておもひとくとく
いづくさうさよくとく戯奴とくくとくとくとくとくとくとくとく
ハ和氣とハキナトサリ(ものあは)室もほとすくとくとくとく
とく、戯奴の下宿寢字反多故べーと來けひてても坐まつたのもま
まも、打考べ、茅井とく飛と、うへひうへせー歌が詠つ
やせまよ人まればうとうむがまく

畫者咲。夜者戀宿。合歡木花。君耳將見哉。和氣佐倍爾見代

いふハナトキ。よるハツシメル。ねむのたま。わのミスンや。とけよみよ

和名抄唐韵云檣和名称布里乃木辨色立成云睡樹字鏡合歡樹檣オモズ

夫利と訓。妻木と主を入のひより立成るかとくがをくも。ちのミスンや。とくハ

解ベテギ君ハ吾の寝木をすまし。お車ハお船でとく

右折攀合歡花并茅花贈也

茅花ハ三月、合歡の花ハ六月

あれハ時見木也。まよ猪せんじめよ。抜てくとへ毛くもと筋むすび

大伴家持贈和歌二首

吾君爾戲奴者戀良思給有。茅花字錐喫彌瘦爾夜須

わきみよわけはくまうたましよ。つだまどくへど。いやせくふやも

れわけハ御といすすれど。紀女郎。うきよ。かくわきよあらすとけと

くまくいふをえて、さとけのくま。御りくま。彼方の城の詞を

吾妹子之形見乃合歡木者。花耳爾。咲而蓋實爾不成鴨
わきよこがくみのねむはをまのくよ。さまくとく。みよわく。かく
合歡のくまもれば。かくのくよ。かくのくよ。くはくよ。くよ

く。く。く。

大伴家持贈坂上大娘歌一首

春霞輕引山乃隔者妹爾不相而月曾經爾來

はさかくみたちびくやまのへなれば。づよすあひもく。づきくへふける

殊ハ太暉のじとく。あめのまえ

右後久通京贈寧樂宅

夏雜歌

藤原夫人歌

明日香清御原宮御宇天皇之夫人也。字曰大原大刀自即新田部皇子之母也。

半二子御子夫人、天武紀子夫人藤原大臣女冰上娘生但馬守女、次夫人冰上娘

霍公鳥痛莫鳴汝音卒五月玉爾相貫左右二

志貴皇子御歌一首

モキモチ。バヘのヌクシテ地ハマホのサシトリケタク、ガラナタコのモ
良思の墨トドモア、勢聞ハ大和様ヒ助ヒみゆ、ナツルモ迄ニ、アモロコのモリ
削皇子御歌一首 天武天皇の御歌子

弓削皇子御歌一首

霍公鳥無流國爾毛去而師香其鳴玄宇聞者辛苦毋

小治田廣瀨王霍公鳥歌一首

金記嘉紀持後紀六年二月為留守官、元正紀養老六年正月卒。

霍公鳥音聞小野乃秋風。芽開禮也。聲之乏寸

むとりとこくれやハあれどやのと

沙彌霍公鳥謡一首 三方沙弥もへト姓と有せり

足引之山霍公鳥汝鳴者家有妹常所思
あじきのやまほとぎひながなけばじへもひかへづるふちもわゆ

持てまつもとまくまくへ、まののへハゆ

刀理宣令歌一首

物部乃石瀬之杜乃霍公鳥今毛鳴奴山之常影爾

ものれいそせのかうのほとぎひ、いまほとぎひ、やまのとうげふ
おのれいそせのかうのほとぎひ、いまほとぎひ、やまのとうげふ
ちるやく、どこかのまくまく思ひれど、そもほ、まく、本音のまく、本ハ木の
よし代のまくまく、まよたひまくまく、あらまく、さればまくまくの本音
くらべて、おもいそれき、まくまく、がたとほく、ひのまくまく、あとたとく

山部宿禰赤人歌一首

翻刻文獻大典著於登臨文

戀之家婆形見爾將為跡吾屋戸爾殖之藤浪今開爾家里
こいはがくみせんとわやどす、いまはきふけて
立けばを立てばえ、家一を久よゆる、うりくはまく、三回下、お役歌
のあられば、まのれど、せんと、うりくはまく、三回下、お役歌
立けばを立てばえ、家一を久よゆる、うりくはまく、三回下、お役歌

式部大輔石上堅魚朝臣歌一首 後紀養老三年四月後六位下
よも後立位下と接する、もゆも下ゆ

霍公鳥來鳴令響宇乃花能共也來之登問麻思物乎

ほきをさすとよもとよもとよもとよもとよもとよもとよもと
古近ノイモヤ大はでの妻郎女みよとよもとよもとよもとよもと

堅魚朝臣達後

也一作本
乃ニラ今作本
誤

萬葉歌ノ作れハアリモ、トハ妻のなきたまも立テマシヤ
ソリムシベ、けは既ニ熟ミト冥途のをとリテ後ミルモベ、叶のひも
た、熟ミト甲、はあむかのうれバヨウの、和名抄ミ本草ニ搜疏一名揚檉
木宇豆、さくば御元の様の、ハ事五天地のうらぐるーいひづげとトメ
ス乃ニ用、く、さくば御元の様の、ハ事五天地のうらぐるーいひづげとトメ
来ハ本の傷、さくば御元の様の、ハ事五天地のうらぐるーいひづげとトメ
仰マの妻ハ御元の姿失、まく、せせて、りへちく本一や、熟ミト同イ人
カのとく、い、ねち、べ、老ニキミテ、は即々の、かく、よれる、お育
右神龜五年戊辰太宰帥大伴卿之妻大伴郎女遇病長
逝焉于時勅使式部大輔石上朝臣堅魚遣太宰府弔
喪并贈物色其事既畢驛使及府諸卿大夫等共登記夷
城而望遠之日乃作此歌 记夫ハ和名抄疏前遠賀郡木夜チ、夜

歌

公夷と送ル、契仲と下府形城邊本乃

信

ノミシテ、母山とソニシテ、こちく、ベ、キミ

ツキの、みと、ある、と、子紀の、みと、う、紀伊、小の例、と、す、よ、じ、と、紀の、字、う、き、

モ、よ、と、う、と、紀、夷、ふ、と、き、の、川、ヘ、レ、紀、ハ、紀、の、み、と、う、ひ、と、う、

太宰帥大伴卿和歌一首

橘之花散里乃霍公鳥、序戀爲乍、鳴日四曾多才

たち、ひ、の、た、か、ち、る、き、の、ほ、と、く、き、ア、で、か、こ、レ、つ、ち、く、レ、い、で、お、や、

橘の、あ、と、あ、き、人、そ、と、人、に、く、が、れ、と、知、く、と、へ、

大伴坂上郎女思筑紫大城山歌一首 拂人マの、ゆ、え、キ、天

平二年十一月大伴坂上郎女發帥家上道超筑前国宗形名况山之時、の、と、
裁、う、四、も、ハ、つ、く、と、す、ゆ、く、同、二、年、夏、初、ふ、く、よ、る、な、る、べ、

今毛可聞大城乃山爾、霍公鳥、鳴令響良武、舌無禮杼毛
いま、か、ひ、お、い、き、の、や、ま、い、ほ、と、き、ち、た、か、ち、と、よ、む、ら、ん、わ、い、ま、ん、

翁主の多くのいづるハ大坂の山ハ御堂殿の四王ま山の城の山ヒ別
リテ室もひつり、御堂殿もまきうねど、雷もハヒモニトモ

・とす

大伴坂上郎女霍公鳥歌一首

何哥毛幾許戀流霍公鳥鳴音聞者戀許曾益禮
なすりし。とがくこゝも。ほく。さむて。なく。こある。すけ。ば。う。い。と。ま。れ
上の。あ。る。ハ。お。そ。と。あ。く。ま。く。下。の。ゑ。ハ。人。と。多。く。行。か。よ。く。む。と。多。
す。で。あ。き。け。を。人。こ。し。ま。の。ま。る。と。

小治田朝臣廣耳歌一首 侯紀ニ廣耳とソ人と云々、小治田廣千
トヨミ。これ。モ。後。化。ト。ハ。誤。字。多。し。耳。の。ま。ま。ち。キ。コ。れ。ハ。誤。れ
フ。モ。ト。莫。け。ハ。

獨居而物念夕爾霍公鳥後此間鳴渡心四有良思

大伴家持霍公鳥歌一首

ひとく。み。て。カ。の。お。れ。す。い。よ。た。く。ま。く。こ。ゆ。る。き。わ。る。と。う。あ。る。う
大。こ。ゆ。ハ。ま。く。お。り。し。と。き。や。ま。え。が。ま。よ。う。と。う。ハ。づ。く。ま。ま。く。と。
大伴家持霍公鳥歌一首

大伴家持橋歌一首

吾屋前之花橘乃何時毛珠貫倍久其實成奈武
わ。が。や。ど。の。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。の。や。ま。べ。を。ま。す。と。よ。す
モ。ハ。美。か。も。り

大伴家持晚蟬歌一首

隱耳居者驚悒奈具左武登出立聞者來鳴日晚

こりやのみ。そればひせみ。もくわふぞ。いとまちきけ。さちうひ。

和名抄尔雅注云茅蜩一名蠻ヒス良之小青蝉也

大伴書持歌二首 あおての弟々

我屋戸爾月押照有霍公鳥心有今夜来鳴令響
わがやどよづきおーてれどほくきよそ、ころあるこよひきよそとよるせ
ちとれど押きて、ゆゑもへ、坐ナ一もる山月押照れいとよあら、友
の音來くる所よしもと

我屋前乃花橘爾霍公鳥今社鳴采友爾相流時
わのやどをあたぢをれよ、かくまくと、いまこうなみ、もくにあへるとき
かくすあぐる時リ、おれと構すまくけ、

大伴清繩歌一首 繩一本綱よ化

皆人之侍師宇能花雖落奈久霍公鳥吾將忘哉

みもひとあまもアラのたま、ちりめども、ちくわくぎそ、われもくられや
ああまけ、ほくまく、ゆゑもへ、ちくのうのうのうと、待と、とすあらちう
大あらちしおねども、おれどはくすあらと、おこられゆく
庵君諸立歌一首

吾背子之屋戸乃橘花乎吉美鳴霍公鳥見曾吾来之
わづせこごやどたちよむなゆとよみ、ちくほくぎそ、みよでわが
わうの様とせても、もと、もと、もと、もと、もと、もと、もと、

大伴坂上郎女歌一首

霍公鳥痛莫鳴獨居而寐乃不所宿聞者苦毛

ちくきそ、ほくもあきそ、じくらりあて、いのねうえぬまくけ、ばくまく

大伴家持唐棣花歌一首

夏儲而開有波禰受久方乃雨打零者將移香

なつまくでさきたまむねどひよがのあめうもかうふうつろひきんう
ちみをひきと改みへす

大伴家持恨霍公鳥晚喧歌二首

吾屋前之花橘乎霍公鳥來不喧地爾今落常香
わやよのをゆくもをもとほくききよすつらむおとくめうきの

おみまゆぬきよ橘のゆとちりやくとく

霍公鳥不念有寸木晚乃如此成左右爾奈何不來喧
ほくぎとおもひあがきこのれのかくなるまでふなどこのきもうぬ
あみかみのあく啼きがおきるまでまうごんとハルはざまく

大伴家持懽霍公鳥歌一首

何處者鳴毛思仁家武霍公鳥吾家乃里爾今日耳曾鳴
いづみなまくにえんほくきよやさくのくみてけのみでなく

吾屋前之花橘者落過而珠爾可貫實爾成二家利
わがやどのをみたちをみはちうもきてひまみくべくみよみかしお

大伴家持霍公鳥歌一首

霍公鳥雖待不來喧蒲草玉爾貫日乎未遠美香
ほくぎとまてじきみのうめあめくじまゆめひといあくとひうの

蒲のと菖のまとむせてもかはせあくじうもくじうもくの

大伴家持雨日聞霍公鳥喧歌一首

宇乃花能過者惜香霍公鳥雨間毛不置後此聞喧渡
うのをやのをさばをみほくぎとあまもおうめこゆまきつらう

うのふの聖のまこと。う情。まことの、あひ降りすいとまも、ゆるてまくと。
橘歌一首 遊行女婦 和名守加礼女
君家乃花橘者成爾家利花乃有時爾相益物乎
きみのものまつたちがな、まつむかわくたまよ、まつがのと

橘歌一首 遊行女
九家乃花橘者成爾家
みづへのすゑたぢな
峯ふるはえよやま
さくわくあくまくさく
大伴村上橘歌一首

吾屋前乃花橋亭霍公鳥來鳴令動而本爾令散都
わやどひきもくらびよとほくさくわくとよとくわく

大伴家持霍公鳥歌二首

夏山之木未乃敏矣爾霍公鳥鳴鄉晉太宗流聲之遙佑

大伴村上櫛歌一首

たまに。このかのじがふほんとおもてもあらわ。こちのよしむら

足引乃許乃間立八十霍公鳥如此開始而後將變可聞
あひきのこのまたちとてひくきを以てかくさうしめでのもとものも
あひきの枕内かり山のまゝせき、まづは立木るく上の木とほ下
の木とほくれど、枝葉谷臭久とちくよとほる、ひじらせる
ほのゆのゆへ、神代紀漏とくまく川、八十とまつはちと十
ほのゆ

大伴家持石竹花歌一首

吾屋前之瞿麥乃花盛有手折而一目今見兒毛我母
わづやどのかづくみのうすとくわちゅうれをうてひくめみをむじこづむ

和名抄云瞿麦一名大蘭 和名奈天之古、
一云止古合豆、足ハ安ヒリ

惜不登筑波山歌一首 惜ハ恨のまゝの邊

筑波根爾吾行利也波霍公鳥山妣兒今響鳴麻志也其
つくちぬみわのゆをあせざりきよぎくちやまびことよみやうのまく やうそれ

宣もまかずやハシハヤドリソシモクサアハ前波根ヨリノ人の物の
ちゆくをもとめゆる事無く、おのづからて、おのづからて、おのづからて、
くひきまつり、腰をわらふとよきもともア、それとハモリヤ、おの
と文ひしゆく、幼少のうゑとゆく怪ひも

夏相聞

大伴坂上郎女歌一首

無暇不來之君爾霍公鳥吾如山憲常往而告社
少焉未至見其子曰吾子也

卷之三
辛未年
舊稿

小治田朝臣廣耳歌一首

霍公鳥鳴峯乃上能字乃花之獸事有哉君之不來益
ほよきもとものうのうのをめりきことあれや。まみがまくぬ
よはうきとよんすへゆくくよくあれがくや、ちがい
ゑりて此君ハ友とひよ、まよ一するうじきのきよひの
もがれものとくまく金圓す。あす

大伴坂上郎女歌一首

やうのをすくはれとまえづめたまふるけむちもと
あらわすかへりのまの地をあらわすものとされ、ひきぬきとまの

紀朝臣 豊河歌一首

吾姉兒之家乃壇内乃佐由理花由利登云者不謁云二似
わきよこさつのかわうのきゆうをちゆういれ、トシテかよひる
かまくらまのく壇のくも、くもあうと黒ま、ちとつまきせん、壇津
田とくよりあれ、かまくらと門べー、とひゆうとそん席こ、ゆりかとうとこうと
達とくよ、まかドラほんとくくはよながまよのくと、詩へ酒の
字のさかとまくまくとあはりされま、まなハとくのえうとゆうさ
ゆつよゆうとあまんとゆうとゆうとゆうとゆうとゆうとゆうと
今のももくうとくうとくうとくうとくうとくうとくうとくうと
後や、ソシモトゆうに了例れ、うれま、がまのゆうも後ふとソシモトゆうと
よあまんとゆうと、ト向へ或人不許云ニ似く、ほよあんとゆう不許云ニ似く

何處に居る、是ハ解^シカニテ、之を知^ルハ、
何處の處^リと考^スフ

高安歌一晉
第三高安大島りづもへ

暇無五月。辛尚爾。吾妹兒我。花橘乎。不見可將過。

大神女郎贈大伴家持歌一首

霍公鳥鳴之登時君之家爾往跡追者將至鴨

居候は御心に御心に御心に御心に御心に御心に御心に御心に
御心に御心に御心に御心に御心に御心に御心に御心に御心に
御心に御心に御心に御心に御心に御心に御心に御心に御心に

大伴田村大娘與妹坂上大娘歌一首

古卿之奈良思之岳能霍公鳥言生口遣之何如告才八
あまきとのやうのをえのほとさくらんとげやういふつげきや
きのを改よし拾穗不古と放ふ

大伴家持攀橘花贈坂上大娘歌一首并短歌

伊加登伊可等有吾屋前爾百枝刺於布流橋玉爾貫
いのいのとあむわやどよかうそーれすたちもすれまふぬく
五月孚近美安要奴我爾花咲爾家里朝爾食爾出見每
きつまことちつみあくみうふくもひきまよけりあくみるまよけり
氣緒爾吾念妹爾銅鏡清月夜爾直一眼
いきのそよわづきよいかくひきよくつくよみたじゆく
令覩麻而爾波落許須奈由采登云管幾許吾守物寧
みやんまうともらひくもじひつてこだくわづきものと

字禮多伎也。志許霍公鳥。曉之。裏悲爾。

雖追雖追

نیز کارهای سه کتابخانه ای را
که در آنها می خواهم

尚來鳴而徒地爾令散者為便寧奈美攀而手折
わざまきなみをうづくまつちよちせはもぐとむすびらでこもか

都見末世五口妹兒

卷之二

有ハ居氣室も多、ひつとも「漫まもと」べー、或人ニ、伊追之可等侍の邊れ
坐すと聲を響き、下の伊ハ所、祐と有ニ漫れんが爲めと云ふ。之を
よひテ、ひきへー、右枝さうハ、少枝さうと云々さす。又、枝のきりゆき、
あくみぬうふハ、ま十八精とよするもあらず、安由流室ハ、むよなきつれ、
吉原 来十、秋づけ、みまの君の、阿要奴蟹とよきく、ひの、湯く宿へおたぐ

甲解八
サ七

物の熟ちとあえぬも、つゝも五月をみて既熟ぬふりと
氣は向ふ未ゆままで、かよの向ひがむと同じ、事へまうけを
きあくす改めて、食ハ借字をませうといふまく、ますに筋枕
羽、神代紀白銅鏡とまゆるのれ、みと川、れ羽後より、こしゆるの歎
すすれと歌詞、とよおせ、これよきや、紀の歌哉とうへんせうや
川、志とハ歌ふ、ほきとと罵語、年二歳このまゆると、生三歳この
ちこまゆどりと角、辛子ノ恨哉四月宵公を今テ三月、

反歌

望降清月夜爾吾妹兒爾今覩常念之屋前之橘

かうとくの事は、やへとおしやるにあら

妹之見而後毛將鳴。霍公鳥花橘乎。地爾落津。
いゆづみくのちしがま見るんほと。さむらたるれちばよとつもよわへーつ
ニこのもりくきのなまさん花橘とのそく

大伴家持贈紀郎女作歌一首 目録を作ひたまどよーす
瞿麥者。咲而落去常人者。雖言吾標之野乃花爾有目八方
かうごーこ。さきうぢうぬじとひくどわざめーめの。さあふあくや
半三吉は猪何鹿そ梅のもをうてちかくへんじうとくうしり。そふき
さやーと。きゆういづれをうかくせんそひとくうのうそれとくへんじ
まをうては。うすみをあうで。俗人のうへとつまくんと紀郎かとそく
よだるゆき翁もく

秋雜歌

岡本天皇御製歌一首 鈴明天皇

暮去者小倉乃山爾。鳴鹿之今夜波不鳴。寐宿家良思母
ゆき小巴をとくのやまふ。なきの、よひはきのよいねふけーも
半九ようく麻のと卧鹿のとくて。雄畧天皇の御製とく。左記
或本云。岡本天皇御製。不審正指。因以里載と。小倉山ハ大和半
九也。半九。続田の山の麓上の小坂峠すとく山もくべー

大津皇子御歌一首

經毛無緯毛不定。未通女等之織黃葉爾。霜莫零
たてくちくわきくきぐめび。をとめらう。ちるかみぢづよ。おひよくわく
かみくら葉をやうて。絆よすて。おもふう。歲せると。ハよみみく。心懷風
蓮よは。ここ山機霜杼織葉錦と。作ゑよ。よ。同。えと

穗積皇子御歌二首

今朝之旦開。雁之鳴聞都。春日山。黃葉家良思。吾情痛之

見
不_ラ
誤_ラ
活_二
本_三

けのあそんかづうねきつからざやまみぢふくわがころり

わづらひ秋のあうきのゆとり

秋芽子者可咲有良之吾屋戸之淺茅之花乃散去見者
あきひすはまゐべうりわがやどあきらうすまのちうめるこれ

つもハまきよ移すゆく初秋よあるまし

但馬皇女御歌一首

一書云子
部王作

事繁里爾不住者今朝鳴之雁爾副而去益物乎

こゝげきよとてまますばなきかよたぐしていなまくこのを

一云國爾不有者

いはきわざとすまな人不とせ下き漢をまほり集めにあはざとよかよひく
ももハ後へよみりまく一本のあすあはましもよあへまつひとく

山部王惜秋葉歌一首此生天武紀より多岐をきくもま

万解ハ

サ九

桓武天皇いまく王まもとさけの時は山部王とやせり、つれふり

秋山爾黃反木葉乃移去者更哉秋乎欲見世武

あきやまふえみがこのものうつむかせうやあきよまきくわせん
はまよ黄變とちうえハ變の首文もまごー、うつむかせうり、由つて
かまよあれハゆつりわらじとくとく、とくとくのあ黒よ、えよまくわせん
もとくわせん、くまくわせん

長屋王歌一首

味酒三輪乃祝之山照秋乃黃葉散莫惜毛

うまきとみのをすうぶやまてくあきのかみぢよ、ちくまくわせん
はまくわせん、二の匂ハ秋すの匂くわせんと叫ぶもとと思ふらう、
あれとおのゆき根らしと、室もまき三輪のいそひのやまじふるう門だく、
いそひのひづと育すつゆとりとくとく、もとゆべさら

山上臣憶良七夕歌十二首

天漢相向立而吾戀之君來益奈利紐解設奈
あすのがれあひむきとまくわがことしきみとまくじとさまけぬ

一云向河

織女のそとよるて解まけまく解よしとん

右養老八年七月七日應令 優紀元正天皇養老七年九月神
龜出八年二月改号神龜九年五月ハ七年の後も一

久方之漢瀨爾船汎而今夜可君之我許來益武

ひかのあまのうせよ。ねうけくこよひのきよ。うわ。うとすまよん
そうちよゆ。わがま。はくのがふ。く。まちうどゆ。く。一本漢の
よ。天字あり。瀬のうよ。き。あまのうふ。とよせ

右神龜元年七月七日夜左大臣家 長屋王のあ

牽牛者織女等。天地之。別時由。伊奈宇之呂。河
ひこ。ひた。あく。づき。あめ。つち。の。り。く。き。ゆ。つ。な。り。ろ。か。く。す
向立。意空。不安久爾。嘆空。不安久爾。
じき。よ。お。ま。く。や。も。う。わ。く。よ。な。げ。く。く。く。や。も。う。く。く。く。
青浪爾。望者多要奴。白雲爾。涕者盡奴。如是耳也。
あを。や。よ。の。う。み。た。え。ぬ。ち。く。り。ふ。な。く。く。づ。き。ぬ。う。く。の。う。や。
伊伎都枳平良牟。如是耳也。憲都追安良牟。佐丹達之。小船
いき。づ。き。と。く。ひ。か。く。の。う。や。こ。い。て。あ。く。ん。さ。ふ。ぬ。の。を。ぶ。ね
毛賀茂玉纏之。真可伊毛我母。一云阿母も。何。も。掉。朝奈藝爾。伊可伎
も。か。し。た。す。き。の。ま。う。い。う。し。
渡。父。塙。爾。一云父伊許藝渡。久方之。天河原爾。天飛也。
や。う。ゆ。り。よ。い。き。わ。う。じ。か。み。あ。あ。ぐ。ふ。お。ま。よ。や。

領巾可多思吉。真玉手乃玉手指更餘宿毛寐而師可聞。云
ひれかづきまくまでのれまくさかあまといもねづこす。
伊毛左祐
秋爾安良受登母。一云秋不
而師加待登毛

伊毛左祿
而師加
秋爾安良受登母。
待登毛不_ス
一玄秋

†
Dana & Son

いふるうれし、宇ハ年の運と、まほひはのよせり、
うれしき事と、心をもてば、あらわに、まこととく、彼の心より
あらぐ、きぬのと身ハ丹青くぬるもとく、とて、さへ、かく語へ
事あけのこゑよく、むききのちういぢくぬるむじき
月は静せらるま、いかに、いざのいへぬき、かくへかく水とか
くく、天あてともおもむく、がくせんせんのくく、たゞ、川中とお
居ても、もむのむく、うへまきまきの風情、あましりま、
あまくまくおもむく、うの心へぬき、うの心へぬき、

西游八

風雲者二岸爾可欲倍杼母吾遠嫗之一云波事曾不通

婦云
乃波

凡モヤハトツリ、事ハ言ニ一車の邊もづまハ寢妻のと
多夫手二毛、投越都倍伎天漢、敵太而禮婆可母、安麻多須
辨奈吉

右天平元年七月七日夜憶良仰觀天河一家作云卽

天河の下作の事ある事う仲の旅人ア

秋風之吹爾之日從何時可登吾待患之君曾來座流
あきうやのすまうひとひづくいづくらがまうこし。まうづきまうせむ
まうまともうひア

天漢伊刀河浪者多々禰杼母伺候難之近此瀨宇
あまのがそりとがそりやみかねど。さうひがくちの年このせんを

は基のとて河底^{モト}をもとめぐれて、これもれど川底とうふひ
後がまうりえき一もまうひひかり^{ナミス}旅宿候^{マラシテ}母良は不得考、半六月

すがほうまんと伺候^{モモ}、まううじゆ

袖振者見毛可波之都倍久雖近度為便無秋西安良禰波
そぞくくわさかくつぐちのそれどりもとべり。あきうあくねハ
モノモロヒとよもきこゑのと

右天平二年七月八日帥家集會

玉蜻蜓、髪鬚所見而別去者毛等奈也憲牟相時麻而波
かずうひのほのくよみうてわのれあ、かくやもやもひんあすとまうひハ
かずうひの柄^{ハシ}の下^シの

牽牛之迎嬌船已藝出良之漢原爾霧之立波
ひこりのつまびらかねこきづく。あものかまくふすうのくてもハ
タ裏のまとくくやまよれ津^ツのくとせり

霞立天河原爾待君登伊往還程爾裳襯所沾

かまくふあものかまくふすうまつとい、うよほくよももとくぬれぬ
扇^{イニ}のまくふよもく、伊^ハ多^ハ多^ハく

天河淳津之浪音佐和久奈里吾待君思舟出為良之母
あものうはうまうのやゑとさわぐわうやがまうおとくふうでまう

天上のまむすは津々とそり、神代紀天浮橋をひて、ちかくは鷦の音と
ゆひて、さあは津ハ傳の溪と、津津のまみのこもくへんじゆゑ
太宰諸卿大夫并官人等宴筑前國蘆城驛家歌二首
娘部思秋芽子交蘆城野今日卒始而萬代爾將見
珠匣葦木乃河乎今日見者迄萬代將忘ハ方
かみたべ、あきはまゝまる、あきのぬけひととくさく、よろづのみむ
たまくげ、あきみのふととよもれがよろづよまくよ、わらわらえめや
さくじやね、あきのやあきのうはから甚威の音あくすじゆ

右二首作者未詳

笠朝臣金村伊香山作歌二首 わ名がにほ伊香郡り、神名帳
伊香郡伊香具神社ノ名、キニミ越あヘトヨハのうる、タクミノアフ
草枕・客行人毛往觸者爾保比奴倍久主開流芽子香聞

くまくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまく
まくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまく
まくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまく
伊香山野邊開有芽子見者公之家有尾花之所念
いのこやまくまくまくまくまくまくまくまくまくまく
まくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまく

石川朝臣老夫歌一首 伎紀文武天皇二年秋七月直廣肆石川朝

臣小老為美濃字とくゆ此小老のるるや

娘部志秋芽子折禮玉梓乃道去裏跡為乞兒
をみきべ、あきはせたれ、まやこのみ、みちゆきどく、こばんこのくめ
折の上手の音を應答する、まちむられ、れの傳ふく、きらむるもんのう

藤原宇合卿歌一首

我背子乎何時曾旦今登待苗爾於毛也者將見秋風吹

わづせことをいつぞいまつともあくよ。おややかみさん。あきうせのふく

セメのすゑもくべし。而もハ雨晦のとき、ま十ハ前を長日都良之シテシテ、ひそ
よえくも、そくへやくわとをるはまことまくらむわといづくせよきく、いふ言
せこがいつまつて、今あるうれしき事、雨晦のタキバキはま木やく。
言葉ハ村へきの邊、せハ世の邊す。輝モ世者肉見あきうせのすけうす
身ハ風の音くといす。むきへ

縁達師謡一首 信ちくべー

暮相而朝面羞。隱野乃芽子者散去寸。黃葉早續也。

トのじあひて、あたれぬみ。なだすめの。なぎはちうに。まくらむやつて
古道と野よ面ぬ。うきりしく、邊といまん席うせても、まく邊ハ裏一
己津地邊乃ひまよ。因生て暮相而朝面無美。隱ふかとてすむる奇く
やうゆくやうゆく御へて、伊賀の名張郎の隣へ、まくらう。邊うた語

香山臣憶良詠秋野花二首 美の下日陽よ歌のまも
大一ふ胡面をまくかれ、うーあたれぬみすとよどて、あつげハせせす
つまくやせまくせまくよ

山上臣憶良詠秋野花二首 美の下日陽よ歌のまも
秋野爾咲有花乎。指折可伎數者。七種花其一
あすのぬよききくもむを。れがくまく。れがくくまく
碧若指折。もあり。おうじわハ枝をかくす。かきハ洞。ま十七かき。かくす
ニゲキ山

芽之花。乎花葛花。瞿麥之花。姬部志。又藤袴。朝貌之花。其二
はさくがすみ。をばくくぢがれ。すくでのたすみ。とみあくべー。あ
すやうをのま。あすがやのをや

梅乃多と。ま生もく。椎花もく。あきうせりひー。あく。彼々新

三ノ日秋よりあれとありもどハ槿花もばあはづれそもそべし。右ニ
シテモ多きとよみとをもとづれ。詩する事くして其一其二もそ

天皇御製歌二首 玄武天皇之

秋田乃穗田乎鷹之鳴。闇雨夜之穗杼呂爾毛鳴渡可聞。
あまめのほんをかわね。やいざくよのひどうふしよまくらむ。
徒よ御トリと、底よどひすくほるばほ。ハリのとをしき。夜の
いのくらとよまくらむ。ほるばほ。ハリのとをしき。夜の

今朝乃旦開鴈之鳴寒。聞之奈倍。野邊能淺茅曾。色付丹来
けよのあけ。かうねきし。きーし。のあさもぢ。いろづきよぐも
まくい。わらぐ。

太宰帥大伴卿歌二首

吾岳雨掉牡鹿來鳴。先芽之花嬌問爾。來鳴掉牡鹿。

わづとうふきよーのきちく。やま、たまう。とまづまくしよ。まくしよの
さきをまく。か葉子くねハヌチ。れどき、わづと、つづけささる。月、芽子の
まくしよ。麻のう葉子。まくしよ。別。うきのうれバ。芽子と麻の妻。くしてお
つき。ばづ

吾岳之秋芽花風手痛可落成。將見人裳欲得

わづとうのあきはやのうも。かせと、りく。じく。く。まくしよ。うんじく。まく

三原王歌一首 侯紀勝宝四年七月甲寅中勢卿後三位三巨玉薨

一品膳大政大臣舍人親王之子也。よひゆ

秋露者移爾有家里。水鳥乃青羽乃山能色付見者

あきのつゆ。はづ。な。け。ア。み。づ。と。もの。あ。と。バ。の。や。ま。の。い。ろ。づ。く。れ。ハ

四時。く。る。青。桜。葵。桜。花。桜。ハ。ミ。ト。ス。の。お。れ。ハ。古。へ。よ。う。せ。と。根。ま。

木。深。か。く。さ。く。づ。く。ま。く。よ。つ。を。う。つ。と。よ。き。よ。ー。ゆ。

まめとそん料りも山ハ比多すあひは、け多くよみの物の羽
の毛れもひそむかへて、羽は伏すまく、竹もさくらぬ。

湯原王七夕歌二首

章牛之念座良武。徒情見吾辛苦。夜之更降去者。

おもひまくはるいとよし
おもひまくはるいとよし

織女之袖續三更之五更者河瀨之鶴者不鳴友吉
たまごのそでつぐよしのあゆきはがくせのれづかやうのよしよ
袖アハ袖アラリモ有ドヨシリトミヌトモアレド一衣のアキアキのアキ
ナハちうてナあれナーナヌミ

市原王七夕歌一首

女詒登五口去道乃止有者附目紅絲足不更附室矣

藤原朝臣八束歌一首

棹四香能芽二貫置有露之自珠相佑和仁誰人可毛手爾

將卷知布

さきと一のをまよわせおけふ。あのをもとたま。あまやよ。これのひと
うも。てふまのんちよ。

旋ひきく。半十一。うのくせのやま。うりとりすれ相撲。かよ。よ。うり。
それ。あまのよ。は。エキシ。淡薄。ト。マ。ス。ア。ム。ベ。、お。浮。が。よ。あ。モ。フ。ハ
き。リ。ア。ロ。ニ。ロ。ハ。セ。カ。ク。ト。席。の。衣。妻。ト。ソ。バ。サ。モ。の。高。と。席。の。空。
多。モ。カ。ー。テ。ミ。モ。ト。宿。人。う。ク。ア。モ。タ。ク。さ。コ。モ。テ。、ナ。モ。便。人。
ト。ツ。ア。ト。リ。モ。ト。宿。り。れ。ま。室。モ。モ。お。ほ。ざ。よ。お。や。ざ。す。ト。ソ。泊。ア。リ。
れ。は。あ。ま。ま。の。況。せ。ま。、モ。タ。リ。ミ。ト。モ。宿。の。て。ア。モ。モ。ト。今
日。ト。い。ア。

大伴坂上郎女晚芽子歌一首

呪花毛宇都呂波歌。奥手有長意爾。尚不如家里

万解八

サヤ

呂の下布とあせろ。奥手のゆ格とおきてとりあへ。荷手の衣きくう
ききとよもぐれ。ひつづき。がうき。あくねばんせく。おきく。せきくよ
ちの。ぎく。く。も

典鑄正紀朝臣鹿人至衛門大尉大伴宿禰稻公跡見庄
作歌一首 令典鑄司正一人掌造鑄金銀銅鐵之事 路見八城上野人今外
山林よりて神武紀金色鷦飛來て拂弓弭止まし。时人鷦色とぞ。今
鳥見よしハ化セトキ

射目立而跡見乃岳邊之。瞿麥名花。總手折。吾者持將去。寧樂
人之為

のめく。とみのを。の。な。で。この。ま。よ。す。か。た。ま。わ。れ。は。う。い
な。ん。が。く。じ。との。ため

松木を。す。そ。う。松。木。す。き。う。と。う。ハ。半。千。セ。わ。せ。こ。う。す。き。木。を。

もこのへりをよみ、かくやうよむれと者の下持を絞せり一ちよ候、改

湯原王鳴鹿歌一首

秋芽之落乃亂爾呼立而鳴奈流鹿之音遙者
あきをさうのじつうのまゝひよひよひよひよ
まゝのいされおまづは、席のたゞのまゝすまとうえま

市原王敬一首

待時而落鐘禮能雨令零收朝香山之將黃寢

和名抄震雨小雨也、和名之
えれ、氣もひは唐奥のむかひこそとび、は生海南へ下
りて、一車收の下闇のまゝ、この句をこねて、詠ておる

湯原王蟋蟀歌一首

衛門大尉大伴宿禰稻公歌一首

鐘禮能雨無間零者三笠山木末歷色附爾家里

あぐれのありまことにさればみづやまとあれあまねくいろざきよき

大和の三せう

大伴家持和歌一首

皇之御笠乃山能黃葉今日之鐘禮爾散杏過奈牟

おほさみのみのめやまのとみぢぞひきのまぐれよじすのまきごさん

おほさみの竹宿

安貴王歌一首

秋立而幾日毛不有者此宿流朝闇之風者手本寒毋

あきくらむていくすむあねばこのねぬもあしけのりせひたかくましりも

暮月あおぞらあらすとくちかう例もこのおぬくとハ廻るるものゆ一叶

西解八
サ九

忌部首黒麻呂歌一首

秋田菊借盧毛未壞者雁鳴寒霜毛置奴我ニ

あきくらむかうやもいまくらむかうねむしりとすむおまくらむかう

壊と壞ととハ得くばくうねむしりとすむとくらむかう

上とあきくらむとすむとすむとくらむかとすむとくらむかとすむ

故郷豐浦寺之尼私房宴歌三首 持後紀立寺大宮、龜鳥川長、小

塙田、豐浦、坂田より、光仁紀重條、萬城寺乃前在也、豐浦寺乃西在也、

豐浦へ推古天皇の都へよりて此時の都へをえられ藤原の宮のうと

故アリテ

明日香河逝回岳之秋芽子者今日零雨落香過奈牟

あきくらむゆすのとろのあきくらむひきするわめよじくうなまく

ゆきの雪大和の山、室ももゆきたむをうとよまく、ものぢりゆるてとひて、
地名はあくべ、半マ衣もとす廻室とよす、草十一かよみのちに前とあるも、
たゞサハ折の怪もく、もとれじきく、もとくまちく、一といづ、ねまへー

右一首丹比真人國人

鶴鳴古鄉之秋聲子寧思人共相見都流可聞
うづやく・あかふ・じよの・あき・もと・ぢや・い・も・ち・あ

秋芽子者盛過手。徒爾頭刺不掉。還去年跡哉。
あきこもくいふゆうとす。くもとくさづよか。かづわやんとや。

大伴坂上郎女歌見田庄作歌三首

月
二
誤
目

妹目卒始見之崎乃秋芽子者此月其呂波落許須莫湯目
ひでうめとみうめのさきのあきをまひのつきごくもぢゆくゆめ
始、路の往もよへし、崎ハ丘邊（アカマツ）もあく、うづわちのまくらとく
て、鷺（スズメ）さくさかよし、さくは、のりと、さみの鶴鶴（ハクハク）と竈、おひこよく
も、此の下同の字也。左月と云ふとよとも、以時即女体保の坂上（カミヤマ）もす
詮え名のまづと、さしきよもと、ほくきく、お路え田庄化奇（チカラシキ）もよもん
のはすよ竹田庄化すよもと、然や青つりうと山とかすく、山がすよもれ、
すり引くゆ、よるる、即モ庄主のまき

吉名張乃。猪養山爾。伏鹿之。嬬喙音辛。聞之登聞思佐
よもうの。みのひのやまふと。きのつまよよ。と。おもい。うそ。
吉し。を吉ニ。改モ。と。さへえづ。と。

巫部麻蘿娘子鴈歌一首

誰聞都後此間鳴渡鷹鳴乃嬌呼音乃之知左寸

たれきつてゆりまきわるかかづねのつまよこちのゆくとぞうさら
誰すするこ之知左寸ほきまへ一すとをまききのうの用くもとく用い
まはされ、空きま、多蜘蛛在可とそうがほれまくとぞうあらうと西

ゆう都ハ云のほく、たれきげとくんじう、そハチ都うすあらうと西

大伴家持和歌一首

聞津哉登妹之間勢流鷹鳴者真毛遠雲隱奈利

きつやとよおとほせるかすうね、まくまくとやく、くさがくもなむり

とせうはうるこ

日置長枝娘子歌一首

秋付者尾花我上爾置露乃應消毛吾者所念香聞

あきづけばとをものうへふぢくつのけぬぐもわをもすりぬるみし

秋づけばとをものうへふぢくつのけぬぐもわをもすりぬるみし
大伴家持和歌一首
吾屋戸乃一村芽子乎念兒爾不令見殆令散都類香聞
わづやどひじくつむとおひづみふせきてりとくちくつもうも
ちくづみのあらへとくつむとおひづみふせきてりとくちくつもうも

大伴家持秋歌四首

久堅之雨間毛不置雲隱鳴曾去奈流早田鷹之哭

ひさかのあまもおうびくかくもまくゆくかくわきだうアガヌ
けよもうのえのとばとーこのりきぐるわきだうアガヌ

雲隱鳴奈流鷹乃去而将居秋田之穗立繁之所念

くかくかくわくわくかくのゆきてゐんあきのほづむきくわくわく
のゆきてゐんあきのほづむきくわくわく

のゆきてゐんあきのほづむきくわくわく

立並ひとと

雨隱情鬱悒出見者春日山者色付二家利

あまつろかうるりせそりでくればがちうのやアハ、ひうづまうみけで
あまつろかうるりせそりでくればがちうのやアハ、ひうづまうみけで

雨晴而清照有此月夜又更而雲勿田菜引

あきそれてきよくてもさるこのつよまくまくすてとくれうき

スカシムくすくすまうれいと

右四首天平八年丙子秋九月作

藤原朝臣八束歌二首

此間在而春日也何處雨障出而不行者憲乍曾卒流
こふあすてがまうやいづあまつみそてゆねハ、こうしてぞをる
ゑど改がるまうかくもじよひくそをうてをほるよまくそを

春日野爾鐘禮零所見明日後者黃葉頭刺年高圓乃山
かまくのぬよもぞれすみゆあもトクヒリシタケタマのやま
者一本夜豆

大伴家持白露歌一首

五口屋戸乃草花上之白露辛不令消而玉爾貫物爾毛我
わざやざのをなちう人のをまつゆとげますてたまよゆくのふもが
とだまへねまやかくもくもくもくれハ草花とひくをすまかく
まつすま一ニハ美草とをもくとよきとすすがのづハ引く

大伴利上歌一首 利ハ村の住まべし村上ハ既す

秋之雨爾所沾乍居者雖賤吾妹之屋戸志所念香聞
あきのあめよめつまれハいやとげどやざつやどーもゆゆうむ

トヤマナカトハニヤクニシテ、モハ株子トモウタマシベー、モウハキニルガヤ
トハリモアモヒトウニシテ、モウタマシベーハ銀鏡の間接ちよく。

右大臣橘家宴歌七首

雲上雨鳴奈流鴈之雖遠君將相跡手回來津

うのよなぐちのよもよもんとせんはまくのまく

雲上雨鳴都流鴈乃寒苗芽子乃下葉者黃裳可毛

くわうへよやまくらかわのくもむきちをぎのくわう
くわうへよやまくらかわのくもむきちをぎのくわう

右二首 いのちのよみくまとあやしく

此岳爾小壯鹿履起宇加泥塈良比可聞可開為良久君故爾
許曾

今朝鳴而行之鴈鳴寒可聞此野乃淺茅色付爾家類

けをなきしゆきからぬじみるのみのあともいろつきまくる
原の辻のなきうべをうやうやかのあともをせとさればりえ、佐向け

ヨシノミモリケモあるはよのそじみうそのかの後びと言ひて

右二首阿倍朝臣蟲麻呂

朝扉開而物念時爾白露乃置有秋芽子所見喚鷄本名

あきとあけともおさづくよあつてのむくるあきともそきわくす

能とすとぞとづくへつとやしらん喚大追馬とまうのがくよ

ちうぶ

棹壯鹿之來立鳴野之秋芽子者露霜負而落去之物字

さきのきこもなぐれあきともそくよおひてちうぶのそ

ものとのねむく

右二首文忌寸馬養

後紀靈龜元年四月癸丑昭壬申年功臣三文忌

寸孫麻呂息正七位下馬養三十等十人賜田各有差

天平十年戊寅秋八月二十日これより

右橋朝臣奈良麻呂結集宴歌十一首

後紀天平勝宝三年橋宿林諸

兄賜朝臣姓ノクニムキハそれより前され、朝臣モセハ昌く宿林改ヘ

不手折而落者惜常我念之秋黃葉辛挿頭鶴鴨

たゞうずてちうみそくとわのそりあきのりそをかきつるかひ

それらるるあらば情のとくと御なり草木とそるわが一とひて、生

育とよろこきとすれど

布將見人爾令見跡黃葉辛手折曾我來師雨零久仁

めづきじとよみんとがすぢをたそりてわづく、あめのそくと小

布将見人爾令見跡黃葉辛手折曾我來師雨零久仁

川へ、半十をつへほくとまことや 希將見、卷十一希將見考としんと
そ、半十二大主のちややくあまの道えもれハレドモ除希將見毛す
ちを、アーベトアムトイホ、ムクハムムと延シテ

右二首橘朝臣奈良麻呂 胡臣と宿祢ニ改ヘ

黄葉乎、今落鐘禮爾所沾而來而君之黃葉乎、挿頭鶴鴨
カミモモトモウタスルナムレキマツキミガリナチトカギーツルカシ
ミレエレフ、詩ナメテ、モウ國のアミモトカギーセラヒテ

右一首久米女王 侯紀天平十七年正月無位より後五位下を授ヒテ布
將見跡、吾念君者秋山始黃葉爾似許曾有家禮

キテ、トガのミマキミハ、アキヤマのトガシカヒナヒテ、アカナレ
ヒマツムカク、シルモ布ハ希の邊ニ、カリヒジヨムシヒメヅリヒリヒリテ、カク

誤
布希ノ

右一首長忌才娘 も忌子氏の娘子もくへ
平山乃峯之黃葉取者落鐘禮能雨師無間零良志
カクハマミ、ミネノアミモトカヒナヒテ、カクハマミ

ミレのアラカニハ、モウタスルトカギー、ムクハムク

右一首内舍人縣大養宿禰吉男 侯紀宝字二年八月正六位上

より後五位下を授ヒテ、ムクハムク

黄葉乎、落巻惜見、手折來而、今夜抑頭津、何物可將念
カミモモトモウタスルナムレキマツキミガリナチトカギー、ムクハムク

右一首縣大養宿禰持男

足引乃山之黃葉、今夜毛加浮去良武山河之瀨爾
あひきのやまのアミモトカヒナヒテ、ムクハムク

もうのう、対山詞

右一首大伴宿禰書持

平山乎令丹黃葉手折來而今夜挿頭都落者雖落

ならやまとてれりちかみちだたとまきてこよひうぎつやら、ちまき

けいそはほりとくもへうかく一つばとようひあくはちまきすりと

右一首之手代人名 之一キニロヒトナミトモトマサ

リマサ

露霜爾逢有黃葉乎手折來而妹挿頭都後者落十方

つゆーかふあへるかみちとたとまきてつよのかきつのもハムルと

はがるくとつとまくす、室を妹のす今夜うすと、今と萬一、夜と

めよほれすきよへとく

平右一首秦許遍麻呂

十月鐘禮爾相有黃葉乃吹者將落風之隨

かみよつきとぞれよあへるかみちとのふうをちり下んがせのあふく
美神うるよゆく下のものとどもくもあよをのんのとこむらもくへ

右一首大伴宿禰池主

黃葉乃過麻久惜美思共遡今夜者不開毛有奴香

かみよのとぞまくをう、拂ひてもあそよこよい、あけびわらぬの

ふくく、おとくとよく、あくねうへあれうとくとく

右一首内舍人大伴宿禰家持

以前冬十月十七日集於右大臣橘卿之舊宅宴飲也

大伴坂上郎女竹田庄作歌二首 此ノよ家持至姑坂上郎女竹田

庄作牙とてあり

然不有五百代小田乎莉亂田廬爾居者京師所念

ちうとあらぬりりろをざをかうみよたふまよそれみやうじきや

寺立志可多阿良農ひげがきまぐくとあるふすみて初句トニル
て田代セモとれびぞりへかく宝もハ然然のほそくわあめどるくもいて
えふあくせハ拙候よありあくトヤツムヨド、ソリスと田ハ拾芥拾方六天
為二歩三、積七十二步為十代百四十步為二十代三、五十代為一殿とのア
田がせキ十六步の段よ田唐者多夫世也とく田のふせいやの二
隱口乃始瀬山者色附奴鐘禮乃雨者零爾家良思母
こかくみのぞつせのやまづらづま。さくのあめハナサムケラレ

右天平十一年己卯秋九月作

佛前唱歌一首

思具禮能雨無間莫零紅爾丹保敵流山之落卷惜毛
志ぐれのあめきもともよちうとれみかよひむるやまのちくまくす
叶のくまとよくまと

敵ヲ敵
ニ誤

右冬十月皇后宮之維摩講終日供養大唐高麗等種種

音樂爾乃唱此謌詞彈琴者市原王忍坂王後陽姓大原

也歌子者田口朝臣家守河邊朝臣東人置始連長谷等

十數人也皇后宮光明皇后之縷紀天應元年九月授無位恩坂王後立

位下シタキ

大伴宿禰像見歌一首

秋芽子乃枝毛十尾二降露乃消者雖消色出目八方

あきをのえどもとどもふおくつゆのけあけぬといろよいでめやも
上ハ清くいそん序すて命のぼり人よきれどよきとよきともゆき

大伴宿禰家持到娘子門作歌一首

妹家之門田乎見跡打出来之情毛知久照月夜鴨

いじのくのからとみんどうもとくともつくるてもつくよかも

ちくはすとくふは、ゆきさんあるちうとが、ちくはすとくつて、月よつ田と
そくもとじくと、まつ田とくとくと、月の照らせむと

大伴宿禰家持秋歌三首

秋野爾。開流秋芽子。秋風爾。靡流上爾。秋露置有
あきのぬふ。やけ。あきを。あきのせふ。なびくる。あきのゆおなむ
さかねけ。秋と。まねいと。のれん。

棹牡鹿之。朝立野邊乃。秋芽子爾。玉跡見左右。置有白露
やくの。あたつ。の。あきを。す。たまくみる。おのくもあつゆ
狹尾牡鹿乃。脣別爾可毛。秋芽子乃。散過鶴類。盛可毛行流
さそりの。じなとけみう。あきを。や。ちあき。け。ほのき。いぬる
まさきうの。年。室和氣ゆ。人。秋の。たまむ。よ。麻の。御。まつまく。か
え。まの。あ。と。の。よ。う。まの。まく。あ。る。と。二。格。まく。う。と。

右天平十五年癸未秋八月見物色作
内舍人石川朝臣廣成歌二首

妻戀雨。鹿鳴山邊之。秋芽子者。露霜寒。盛須疑。由君

つまく。かく。やま。の。あきを。き。ハ。ゆ。し。み。さ。う。り。を。き。ゆ。

妻一秋ち。ひ。く。る。ご。と。あ。る。の。廣。ね。峰。山。名。う。と。り。う。よ。へ。る。く
席。く。の。ち。す。石。か。と。す。れ。ば。き。く。潤。を。ぬ。と。宣。を。い。す。が。く。く。く。く
あれね。ば。後。う。く。ね。や。う。あ。れ。ど。ち。う。き。く。山。べ。く。よ。ま。ん。よ。う。け。き。く

目頬布。君之家有。波奈須為寸。穗出秋乃。過良久惜母

め。づ。く。き。み。が。い。な。る。を。あ。き。き。ほ。よ。づ。る。あ。き。の。そ。ぞ。く。く。を。く。も

神功紀神陀の詞。幡萩穗出吾也。と。集中。ち。も。あ。き。こ。は。一。の。ア
を。が。も。く。き。と。き。ば。と。一。奈。ハ。大。の。字。の。後。の。新。撰。方。望。す。花。薦。と。う。の。ち
も。ふ。不。善。よ。み。い。ば。を。か。の。象。れ。あ。は。と。ソ。り。よ。や。萬。ハ。友。う。ま。と。き。

て、こゝをよべ、さくみづへくは、かくせむ御まし、並すとよへかこゆ
匂とよべ、秋のるて居の、くわんを惜りむ

大伴宿禰家持鹿鳴歌二首

山妣姑乃相響左右妻戀爾鹿鳴山邊爾獨耳為手
やまびこのあいとよもよてつまごひよかかくやまびよひとうとのえ
ひとうのうてふくさじきゆきよねのとくりふ
頃者之朝開爾聞者足日木崑山乎今響狹尾牡鹿鳴哭
みどりのうけよけばあひすのやまとことよそ。さくへうよくし
哭父喪のすのほきく

右二首天平十五年癸未八月十六日作

三誤
郷ヲ卿

大原真人今城傷惜寧樂故郷歌一首

後紀宝字元年五月正六

位上大原真人今木被後立位下同六月治那サ輔トモミケヨリズ

万解ハ 四十九

秋去者春日山之黃葉見流寧樂乃京師乃荒良久惜毛
あきされがれどりのやまわりみぢるかのみやのあるらくをとも
久遠のあくうづれいほ、おもとくいやすらぎあるらく、あくと延三

大伴宿禰家持歌一首

高圓之野邊乃秋茅子比日之曉露爾開蕉可聞
たのまくのめのやまをひこのごろのあときつゆ、さきよけへうも
蕉と本葉を信れど、一かよとすまくみつ

秋相聞

額田王思近江天皇作歌一首

君待跡吾戀居者我屋戸乃簾令動秋之風吹

きえますと、やうひをひわやどみ、そぞれうごう、あまのうぜす

鏡王女作歌一首

三誤
葉ヲ兼

風孕谷。戀者乏。風孕谷。將來常思待者。何如。將嘆
かせども。うるさかり。かせをもづふ。うんどうまく。わいのどや

右二年半里を裁り、主に望月川、四は八風川を主流考す。何者將嘆
とかくす

弓削皇子御歌一首

秋芽子之上爾置有白露乃消可毛思奈萬思戀管不有者
あきらめのよもよもきたまちうゆげりとひつわらひ

丹比真人歌一首
名闢

宇陀乃野之秋茅宇師弩執鳴鹿毛妻爾憲樂苦我者不益
うたのぬわあきよをもぬす。さくもす。つまふよもく。ひいだ。ひまよ
あらぐハ年事ちあひまきよをうどよも。こまちむすなれあひま

えうめうり、曾女ハ天武の曾女ニ

足日木乃山下響鳴鹿之事不可毋吾情都未
あびきのやまたとよみなきものにてかわづま
上ハヒキヒシテシテノ事ハ言シテモナリハモジカニモニモロ
づまハコモウヨツモトナシテシテム人トヨベ

洪武
卷之三

神佐夫登。不許者不有。秧草乃結之紐罕。解者悲哭。

かみきりといふが、あらわしめたるものもまだひじりととのそりかぢとも
まに化女をひきさげて、いよいよ、ゆきをもてて、そのよううづくとちり
るよしに今も同じ、おとうとハ女のまゝ、おこなふとおり、いさみはあらぬむすめ、
秋まのや枯葉よきわく、いえ櫻とえんべ野といつて、せまひ宿すいとも料
まく、蟻アリ人あれどまよはせといひまきんとおもへどもつづく。

石川賀係女郎歌一首

賀儕女王歌一首

長屋王之女、母
曰阿倍朝臣也

石爾相有今夜

秋里守日往鹿乃萌毛奈久念之君爾相有今夜香
も身のゆきゆきのちゆくあらわすかはるかの

まちのあそびをしたくたのむよ
まちのあそびをしたくたのむよ

白文成，京喬邦人。善篆隸，兼達篆籀之學。

遠江守櫻井玉奉

天皇歌一首 綾紀和銅七年正月五日
天皇御詔

九月之其始鴈乃使爾毛念心者可聞來奴鴨

たのりづきのまのよつうのうひす。せかへてまわはきこゑこぬのも
使一本便ニ候れど、使の方をもとより可ハ所の傍ヌ、唐の便ハ漢書ニ譲武

すまうかとよあき、往來をくわへ、清喜のまきとよあきと

天皇賜報和御歌一首

至武天皇

大乃浦之其長濱爾緣流浪寃公辛念比日

おうのうらのうのやうづれによまむたまゆくすくまとすりてのう

うの浦ハキムカ遠はなせまくまくあんの上へ席すく寃ハ

ゆこのゆきりすよ日くゆきりのよほくまくまく

笠女郎贈大伴宿禰家持歌一首

贈を半賜よ化一あよ伝と改

毎朝吾見屋戸乃瞿麥之花爾毛君波有許世奴香裳

あきよとわがみるやどのかうごとのをまよまよひあちこせぬのし

まよせやせうきこのをまよばなよまよきとまちへうれまくまくあれ

山口女王贈大伴宿禰家持歌一首

ちす甲

秋芽子爾置有露乃風吹而落涙者留不勝都毛

あきよとよおおきだまつゆのかぜよまよおつむまよひよめうねつも

大島の風空てあまゆくとよそだかうりけりうき

湯原王贈娘子歌一首

ちす甲

玉爾貴不今消賜良牟秋芽子乃宇禮和和良葉爾置有白

露

たまひぬきけよなまくあきよとよおおきだまつゆ

うきよたまんがおとよまくびてゆれとよれへまくやうもへまく

すのうわくまきざれとよれまニキ辛鳥れふすかとよれ

きりつゆく浮きとよれまよおまくちまきざれとよ

大伴家持至姑坂上郎女竹田庄作歌一首

玉梓乃道者難遠愛哉師妹守相見爾出而曾吾来之

たまがこのみうらとおけどもまやいとあひすよいとぞうがお

ちかこの想、もろげじば遠見しよは郎女のひそめとぞ

大伴坂上郎女和歌一首

荒玉之月立左右二来不益者夢西見乍思曾吾勢思
あくのつきとまではまきねばいみすうつおもひそわづや

月ハ第百の月ニ

右二首天平十一年己卯秋八月作

巫部麻穂娘子歌一首

吾屋前乃芽子花咲有見來益今二日許有者將落
わづやどのもとをもほりすみよきすせいまよつのをゆあふぢくすん
老十三をすしときうばうちと斗ふうハ二日斗く

大伴田村大娘與坂上大娘歌二首

吾屋戸乃秋之芽子開父影爾今毛見師香妹之光儀宇

わづやどあきみをさくゆつうけよいまとみてーびつかざるを
五口屋戸爾黃變蝦手毎見妹乎懸管不戀日者無
わづやどよかみづるかみづるよとかけつこしぬひきや
舞へ草生とゑもありくよ細るくよとくよおれよとくよ
すまべー

坂上大娘秋稻籜贈大伴宿禰家持歌一首

娘ハ娘小同

吾之詩有早田之穗立造有籜曾見乍師弩波世吾背
わづまけるわづのりもつくりもがつてうつたぬせわがせ
詩一軒業よ伏もつづかれる所べしもつりよやまきこだの根す
とくよーもと用ふべしとす秋田の穗立よとくよ根をい

大伴宿禰家持報贈歌一首

吾妹兒之業跡造有秋田早穗乃纏雖見不飽可聞

やギトコボナシモツメルあさのこのわきがのうづくとれ、あのみすも
まみかみとおまきねとよしの業をひとひ、そハキラモヒタモヒテの
ミムレバヤムリ

又報脫著身衣贈家持歌一首 衣々半夜をす一朝彷彿
秋風之寒比日下爾將服妹之形見跡可都毛思努播武
あきうせのまむきこのごろちよまきんじもがくみとからもぬぐん
まみだらまきんがつやうす取えもしめりとおぐんと

右三首天平十一年己卯秋九月往来

大伴宿禰家持攀非時藤花并芽子黃葉二物贈坂上大

壘歌二首

吾屋戸之非時藤之目頬布今毛見牡鹿妹之喉容乎

わがやどんぞきくすものめぐくくいまもみて】うりつりうがたすまひを
ゆくはすくうぬもすすくら物とをびくくゑもあくいゆとすま
くとも

吾屋前之芽子乃下葉者秋風毛未吹者如此曾毛美照
わがやどんぞきのうももあきうせり】まくうのねばがくうがくみで
うのむもハ祭りうるよのうもかくで、かくうがせるとゆうえ、はせのゆうだ
きご

右二首天平十二年庚辰夏六月往来

大伴宿禰家持贈坂上大壘歌一首并短歌

叩て物乎念者 将言為便將為為便毛奈之妹與吾乎携
ひくくものとおゆハまんじせんじせんじせんじせんじせんじせんじせん
拂而且者 庭爾出立 夕者 床打拂 白細乃

そてあたゞハにちをひどくす。よハとらむらひをうの。
袖指代而。佐寐之夜也。常爾有家類。足日木能。山鳥許曾
そでまゝかへて。きあよやつねるありける。あじきの。やまとくさ。こそ
婆峯向爾。嬬問為云。打蟬乃。人有我哉。如何為跡可。
ハをものひふづまくしもとくつせみの。ひとなるこれや。うゑどとの。
一日一夜毛離居而。嘆戀良武。許己念者。胸許曾
ひといひひよよよよよよよよよよよよよよよよよよよよ
痛其故爾。情奈具夜登。高圓乃。山爾毛野爾母。打
くあそこゆるふうろやくや。たのまくの。やまもくぬよ。くら
行而。遊往抒。花耳。丹穗日手有者。每見益而
ゆす。あそちひゆげど。うちのみ。みすりしてあれば。みるごとす
所思。柰何為而。忘物曾。戀云物宇。

おもひのいきて。わきれじのぞ。こしとものと
叩く。いきくと古とあれど。う。叩ハまよ。叩同也。發也。キ。されば。安達。
なごく。一かよ町。是も。モト。ほもん。叮の。はく。叮嘯の。と。と。ねも。ころ
み。なき。べ。勢の。下林の。ま。一。あよ。がき。と。よ。と。れ。あ。や。や。や。
か。く。サ。き。う。片。シ。ま。く。ハ。事。と。う。ふ。心。事。の。事。用。と。使。す。既。す
おこう。え。バ。も。と。く。ハ。え。そ。こ。ゆ。す。ハ。それ。が。よ。エ。野。尔。の。ト。毎。ハ。母。の。活。い
花。の。四。ま。あ。の。り。り。い。ゆ。あ。く。な。ぞ。ま。く。と。さ。ま。く。

反歌

高圓之野邊乃容花。面影爾。所見乍妹者。忘不勝裳
たのまとのぬべのかいがま。ね、う。げ。よ。み。ま。う。い。し。ハ。わ。き。れ。か。ね。つ。も
り。う。え。ま。ナ。ア。ス。の。せ。の。わ。え。ズ。み。や。う。の。を。す。く。る。う。や。ふ。く。る。と。
は。く。あ。種。花。か。く。と。い。それ。ま。か。り。リ。よ。め。う。め。う。め。れ。よ。じ。ト。セ。き。

大伴宿禰家持贈安倍女郎歌一首

今造久邇能京爾秋夜乃長爾獨宿之苦左
いまつくると小のみやまわきのよのわすりよしどかぬるがくまき

集紀天平十二年十二月戊午經畠山脊國相樂郡恭仁郷以擬遷都故也

丁卯皇帝在前幸恭仁宮始作京都矣

大伴宿禰家持後久邇京贈留寧樂宅坂上大娘歌一首

娘・娘・娘・

足日木乃山邊爾居而秋風之日異吹者妹辛之曾念
あひきのやまべよどりてあきさせのひよなみけばひよどりておなりよ

或者贈尼歌二首

辛母須麻爾殖之芽子爾也還者雖見不飽情將盡

アシタマニナウチトキミヤカツテハミレドアツヒトコロツクミン
アシタマニナウチトキミヤカツテハミレドアツヒトコロツクミン
衣半爾水滝付左右殖之田半引板吾波倍真守有栗子
アシタマニナウチトキミヤカツテハミレドアツヒトコロツクミン
水半少水垢ヘ引板ハヒタヒリズノ用少く拂塵とヨウラウスル
リノウスル板とリムニミ朝ハモリテモリテモリテ女の尼モナム
たゞくさく栗子ハ傳スルカズモ栗極アモ

尼作頭句并大伴宿禰家持所訛尼續末句等和歌一首

大或者ナシテモナシト尼モナムアシタマニナウチトキミヤカツテハミレドアツヒトコロツクミン

佐保河之水辛塞上而殖之田辛尼作苅早飯者獨奈流倍

思家持續

さくがそのみづとせきあげてうとうとからをつひじとつあるべ

佑保を半保作る候、左半佑保を仰り、早坂ハ軍機のをもあくと、新嘗

トソんあくあればもうつひと御べー、勢神ハまわねくもーといつるは

かへて、さや門のゆとせきあげく、田すまくもん人ハ辛勞されしも、前

うくは、やましよ放へくは、そんじとくもんをもいつるは、

下つまくすうてぬざー

冬雜歌

舍人娘子雪歌一首

大口能真神之原爾零雪者甚莫零家母不有國

おやくものまがみのちくよゆきハハハハハハハハハハハハ

ハハくらの格羽、モニあらうの土御の原よと、崇媛紀は始作法真吉

此地名飛鳥真神原、六名飛鳥苦田ともと

「万解八 五十七」

太上天皇御製歌一首 聖武天皇
波大須珠寸尾花逆裳黒木用造有室者迄萬代
はねむきをたもきつまくとさきかてつくれむつよろづよまでふ
半一合せの更生うますに室一本家子能くさくまく徳のよまと下う
て著くとよくろ本ハ波打きとよくとく用るとみびの大ゆきの役とくよ
共年主佑保のかくして対室のはのゆきよくきのむかひのちへよやまくと
ほなぐもくとく

天皇御製歌一首 聖武天皇

青丹吉奈良乃山有黒木用造有室戸者雖居座不飽可聞
あとくすり、なまのやまやるくろぎかとつくれもど、あせどあらぬも
座のよとほてきこまをどよんるる

右聞之御在左大臣長屋王佐保宅肆宴御製

太宰帥大伴卿冬日見雪憶京歌一首

沫雪保杼呂保杼呂爾零敷者平城京師所念可聞
あさゆきのほそくすよすうりしけばやくのそやくおぞいゆるも
ひろひ角帝まれとまく聞く班らんをまくまくも、とこー

天のトハゆゑ

太宰帥大伴卿梅歌一首

吾岳爾盛開有梅花遺有雪乎亂鶴鳴

わづをうふきりやとけむうめのとまのこれゆまとまのつるわ

ゆゆる雪とひ、雪ゆるびきゆ

角朝臣廣辨雪梅歌一首 雄畧紀小鹿火宿御行後紀小弓宿御行夷來
時獨孤角國ミタケノクニ是以大連爲奏於天皇使苗居于角國、是角臣等初居角國而
大名角臣自此始也トシム辨目深は辨毛

沫雪爾所落開有梅花君之許遣者與曾倍氏年可聞
あさゆきのほそくすよすうりしけばやくのそやくおぞいゆるも
花のひとちとくへだら、絆まくまくとよひうとくや
安倍朝臣奥道雪歌一首 緇紀宝龜五年後四位下まく年トヒ
棚霧合雪毛零奴可梅花不開之代爾曾倍而谷將見
たさきくひゆきくふくぬうぬうめのとま、さうのぬふまくよくへとくまく
棚のぬくひく含まく、あぐらく月、さくらう、それうこ梅のさうなや
ふとくへさんとよく

若櫻部朝臣君足雪歌一首 履中紀三年長真膳連本姓と稚櫻部
造と改トスル

天霧之雪毛零奴可灼然此五柴爾零卷卒將見
あさぎくひゆきくすうぬう、いぢるく、みにうだふ、まくとく

かみのハ有りと承て、いつぞ此に大五の此布等、草十一遍のへの
五葉原とよりと曰く櫻室也、約半年放る程れど、古をふよけて改つ、
かみのとくはすとえん

三野連石守梅歌一首 伎紀延暦之年陰陽助正六位上路三野真
人石守言、父馬養姓無路字而今石守獨著路字、清除之許焉と云、
かみのとくはす

引攀而折者可落梅花袖爾古寸入津染者雖染

ひきよちて、そらへちゑみうめのをも、までに、まれつ、そまばそもとも
こきれハ袖を落す、半十八のうとあく、まその匂をくわべーとキハ
そりへまきゆきゆきゆのほら、はまくとくとく、公物とよす

巨勢朝臣宿奈麻呂雪歌一首

吾屋前之冬木乃上爾零雪乎梅花香常打見都流香裳

わやどゆまのくへよすゆきと、うりのかなくらむづるくも
冬木の後を重ねとて、さかわくして、冬のよといつ、次は
そ木の樹もよき

小治田朝臣東麻呂雪歌一首

夜干玉乃今夜之雪爾率所沾名將開朝爾消者惜家车
ぬぢくまのこよしのゆきよしむれもあくああたよすらばそくしん
せんるへなりし

忌部首黒麻呂雪歌一首

梅花枝爾可散登見左右二風爾亂而雪曾落久類
うぢくまのこよしのゆきよしむれもあくああたよすらばそくしん

枝もあらうとく

紀少鹿女郎梅歌一首

少鹿女郎梅歌一首

十二月爾者沫雪零々跡不知可毛梅花開舍不有而

志を失ひあつゆきかすとちうぬすうめのをもくすめうらむて
ちうぬすがをすとしよと拂へたゞぬまうと和名抄言日本紀云沫雪阿

由其弱如水沫とすく清てとまゆるをはまとひす、ちの雪のと

はまとんりそり及のと

大伴宿禰家持雪梅歌一首

今日零之雪爾競而我屋前之冬木梅者花開二家里

けよすアトゆきよまじひてわのやどかのよきのうめがすみこす

キツル物と冬モリム

御在西池邊肆宴歌一首

後紀天平十年秋七月癸酉天皇御大

藏省覽相模晚頭御西池宮

池邊乃松之末葉爾零々雪者五百重零敷明日左倍母將見

右一首作者未詳但暨字阿倍朝臣蟲麻呂傳誦之

大伴坂上郎女歌一首

沫雪乃比日續而如此落者梅始花散香過南

あさゆこのこのごろつきかくすればうめのうすまちうらをまん

池田廣津娘子梅歌一首

梅花折毛不折毛見都禮村母今夜能花爾尚不如家利
うめのまみをやうすくみつけことのをもよやうじうびくす
そやくわすえわくすくすねくとおとおとおとおとおと
人のよみ高きよよとおとおとおと

縣犬養娘子依梅發思歌一首

如今心平常爾念有者先咲花乃地爾將落八方

いまのぞとくろとつねよせりへらまくわゆのつもふれわらかやも
室もちうこれハ行すまえまへるはのすく、男のいのなのめくちようきも、
ほおもと枝もとまくまく、ヨミと人のハ生きとやまくあらむればくわきも、
きもしはれいがくとよみがんといふ、先咲むのりしてぬくとりと
あをそり

大伴坂上郎女雪歌一首

松影乃淺第之上乃白雪乎不令消将置言者可聞奈吉
まづうげのあよもじうへのうゆまとけりてむのんとくはうひちゆ
野の傳家をききへ言事のをく、ばくとてむうんやをハヨモ、うやい、
雪と見る候すよとく、室を言ハ吉の怪く由の傳きべー、うはうる
ききまくべー

冬相聞

歌一首

三國真人入足歌一首

高山之管葉之努藝零雪之消跡可曰毛戀乃繁鷄鳩
たのやまのどこののはぬぎ、するゆきのけめどのいと、このひのちげく
くる山ハ秋もあらず、とハ清ととんきく、けめどのいとハ清きくやいもんく
けもとくやくかくもすれど、差の根とくはこよこくちく

大伴坂上郎女歌一首

酒杯爾梅花淳念共飲而後者落去登母與之
ヤニツアサムラのまみうけくねすゞもとのみくわのもハ、ぢりぬくと
きもあもやまきうきのまとわきのまくのまくのまくのまく

和歌一首

官爾毛縦賜有。今夜耳。將飲酒可毛。散許須奈由采。

つるくもゆすれまへて。こづひのものまんけか。ちりこじゆえ
たむよいます。就きがひとすうよすくは飲る付のす。二方よそ
かべ、敵ハ梅の花とり、ちまことせふ照す。

右酒者官禁制備。京中閭里不得集宴。但親親一二飲樂
聽許者。緣此和人作此發句焉。

藤原后奉 天皇御歌一首

光明皇后と申せると、天皇ハ聖武天皇也。

吾背兒興。ニ有見麻世波。幾許香。此零雪之。懽有麻思
わ。せこと。すすみま。ばくくをく。のするゆきの。うりやうま。

すまセモハアミ。あリセバ。

池田廣津娘子歌一首

真木乃於上。零置有雪乃。敷布毛。所念可聞。佐夜問吾背
まきひく。すうおけるゆきの。うとも。むすいゆく。よとへり。せ
まきハ捨く。よハまく。とく。年のみ。さへ後まく。後渭へり。されど此
後渭うくも。後渭なまく。一

大伴宿禰駿河麻呂歌一首

梅花令落冬風音耳。聞之吾妹矣。見良久志吉裳
うめのまち。あくの。むすみ。まへ。やぎと。そく。一

紀少鹿女郎歌一首

久方乃月夜。乎清美梅花。心開而。吾念有公
ひさかの。つよときよ。うちの。まよ。こうひらげて。そこが。かへる。まよ
梅を。と。用と。うるの。よく。うの。と。八月の。ほきよ。く。七日が。かうく。

其後又以爲不可，乃更請之。其子曰：「吾父之病，非一朝一夕，故不輕耳。」

大伴田村大娘與妹坂上大娘歌一首

大伴田村大娘與坂上大娘歌一首
沫雪之可消物乎至今流經者妹爾相曾

きのけぬがわのと、まよひなぐらぬるはまくわんと、
まよひのやうとまよひ、はねとへきとがまくわん、はなぐらぬるよ
ほのき

大伴宿禰家持歌一首

沫雪乃庭雨零敷寒夜半手枕不纏一香聞將宿
ありゆきのよそよそりきまほよをたまくまのよじいとよかねん
ゆづる枕やまと

萬葉集卷第八

